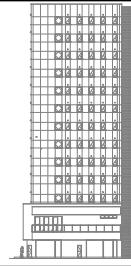


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭・板屋A-1地区第一種市街地再開発	階数	地上13F
建設地	静岡県浜松市	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	333 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、ホテル	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2019年4月 竣工	評価の実施日	2020年6月15日
敷地面積	1,136 m ²	作成者	高橋 秀治
建築面積	756 m ²	確認日	2020年6月15日
延床面積	7,543 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 76% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 76% (92 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 76% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
高い外皮性能・高効率な設備を備えることで、建築物運用時のエネルギー消費・ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制した環境負荷低減性の高い計画となっている。		
Q1 室内環境 汚染原因物質の発生を抑制する建築材料を使用し、取り入れ外気への配慮をしつつ自然換気を有効に行うことで、室内空気質を健全に保つ。	Q2 サービス性能 主要な内装仕上げ材及び各種配管を更新期間の長い素材とし、建物の長寿命化を図る。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地・植栽を有しており、敷地内の暑熱環境緩和の向上に努めている。
LR1 エネルギー 外皮性能を高め、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費の低減に取り組んでいる。	LR2 資源・マテリアル 解体時に分別が容易な計画とし、リサイクルが可能となるような計画とする。断熱材はグラスウールおよび発泡ウレタンA種(ノンフロンタイプ)を使用することで、汚染物質排出量を削減し、温暖化抑制を図る。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建築物(参照値)に対して削減しており、地球温暖化への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	旭・板屋A-1地区第一種市街地再開発ビル 新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8 / 5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 / 5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4 / 5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 / 5		ふつつ	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上	ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.8
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁:石貼 床:タイルカーベット タウトの一部にステンレスを採用 給水:架橋ポリエチレン管 ⇒ B 排水:硬質ポリ塩化ビニル管 ⇒ B 給湯:ステンレス鋼管 ⇒ C	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内緑化により外構緑地指数20%以上を確保 ⑥空地や緑地を設けることで暑熱環境を緩和	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪過半に節水器具使用 ⑫分別が容易である構成を採用(躯体+軽鉄+仕上げ材) ⑬グラスウールおよび発泡ウレタンA種(ノンフロントタイプ)採用	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭一般的な建物と比べたライフサイクルCO2排出量が76% ⑮緑化により地表面対策面積率15%以上を確保	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.8
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰過半に節水器具使用	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
	■"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	得点	3.4
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高は店舗で4.4m、客室で3.2mを確保 壁長さ比率は基準階で0.28、客室で0.19を確保し、ゆとりのある空間を構成	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑広くバルコニーを設け、風や光が通り抜ける開放的な空間を形成	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	3.0
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内緑化により外構緑地指数20%以上を確保 ⑥空地や緑地を設けることで暑熱環境を緩和	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ ② まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) ⑮緑化により地表面対策面積率15%以上を確保	LR-3 2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善